

2024 年度 事業計画書



タンセン保健科学専門学校（ネパール）の校長（左）と
学生たち（中央が JOCS 奨学生）

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置づけ	2
3. 海外諸活動	2
[3-1] 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	2
(2) 新規ワーカー	3
(3) 短期ワーカー	4
[3-2] 奨学金事業	4
[3-3] 協働プロジェクト	11
(1) 第二期シロアムプロジェクト	11
(2) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	11
(3) HOPE（若年妊娠予防に向けた健康教育）プロジェクト	12
[3-4] 災害救援復興支援	13
4. 国内諸活動	13
[4-1] 国際保健人材育成	13
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	13
[4-3] マーケティング	15
5. 運営体制	17
[5-1] 定時社員総会	17
[5-2] 理事会	17
[5-3] 委員会	17
[5-4] 第6回 JOCS 海外保健医療協力者会議	18
[5-5] 事務局	18

1. 新年度の抱負

会長 畑野研太郎

世界は、いま粉々になろうとしているのだろうか。

ロシアのウクライナ侵略戦争、イスラエルのガザ戦争の終戦が全く見通せないばかりではない。ミャンマーにおける軍のクーデターに続く内戦や、十分に報道されないアフリカ、中近東での戦争。実に戦争が地球を包んでいる。

人権抑圧は、強権国家のみに見られるばかりではない。先進国と呼ばれる国々においてもますます深刻な状態となりつつある。圧迫されて押し出されるように、大きな波のような人々の移動が世界を覆っている。

強権国家ばかりではなく、民主主義を謳う国家においても、強まる右翼ポピュリズムの勢力は、近年その勢いを増している。彼らの主張は、差別と偏見をあおり、小さくされた人々への敵意に満ちたものである。

人間の罪による分裂は、利己心の増殖によって地球環境をさらに悪化させ、温暖化による災害の巨大化を起こしている。気候変動の進行は、人類が滅亡することまで予測させるほどである。

このような世界の中で、私はどう生きるのかと問う。JOCSはどう生きるのかと問う。

ワーカー派遣は、今年度には久しぶりに新しいワーカーを送り出せる見通しで、感謝である。もっとワーカーを与えられることを、祈り続けている。ワーカーであった者としてぜひ伝えたい。途上国で人々に仕えるという経験は、医療者としての人間理解を、祈りを、信仰を、間違いなく大きく成長させてくれる契機となるだろう。その経験をフィードバックすることは、今の日本にとってとても貴重なものとなるだろう。コロナ期に拡大した奨学金事業は、現地に私たちのワーカーを生む大切な事業である。大切に育てていきたい。協働プロジェクトも同じである。途上国で働く人々と手を携えて働くことは、世界にJOCSと同じ志を持つ組織を育てる事業である。

取り巻く大問題を前にしての、この小さなJOCSの働きに、小さな私たちの働きに、決して「絶望しない」で歩み続けるというのが、年初に立てた目標である。

「金継ぎ」という日本の伝統技術をご存じだろう。JOCSは、私たちは、祈りと命を捧げて上からの力をいただき、世界を再接着する「金継ぎ」の金の一粒、漆の一滴になりたい。

2. 中期計画における位置づけ

2024年度は中期計画「5カ年計画2023」の2年目となる。「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンに従い活動を進める。この5カ年計画では、2023年度、2024年度の2年間で「JOCSの変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあったJOCSの組織や活動の変革を検討する」ことになっている。そのため、そのひとつの方法として、2024年度は第6回JOCS海外保健医療協力者会議を開催する。

国内諸活動においては、オンラインで実施する方が有効な活動はオンラインで実施するが、対面でおこなう方がよい活動は、感染予防に引き続き留意をしながら、対面での実施を進めていく。ホームページ、電子メールなどさまざまなオンラインコミュニケーションツールについては、より効果的に活用できるように研究を重ねていく。

海外諸活動においては、奨学金事業については、拡充した支援を継続実施する。協働プロジェクトにおいては、新規プロジェクトを形成するための調査を進め、ワーカー派遣事業との連携をする。ワーカーの発掘を引き続き進め、各国の支援要請調査を実施する。

3. 海外諸活動

海外派遣事業では岩本直美ワーカーのバングラデシュ派遣を継続する。また、新規ワーカーをニーズのある国に派遣し、新たな活動を開始する。協働プロジェクトでは2024年度も短期ワーカーと専門家の派遣を検討する。また、新規の協働プロジェクトの発掘と形成のための調査を進める。奨学金事業と協働プロジェクトでは引き続き各国ごとの最新の状況を把握して事業を効果的に展開する。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュは引き続き岩本直美ワーカーをPIME（ミラノ外国宣教会）の実施するJOYJOYプロジェクトへの協力のために派遣する。また、各国のニーズを調査して、新規のワーカーを適切な派遣先に派遣する。

(1)バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年6月

活動概要：PIMEが実施する「JOYJOYプロジェクト」（現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) 組織管理と運営

① スイハリ小教区移転計画に伴う移設

スイハリ小教区のミッション開発プランに協力し、デイケア施設を女児の寄宿舎から男児の寄宿舎へ移転する。この機会にデイケア施設の活動環境をさらに充実させる。

② 人事の強化

- ・組織管理と運営に長けた PIME ミSSIONナリーの招聘：JOYJOY プロジェクトに PIME ミSSIONナリーの一人を常勤者として招聘する。
- ・スタッフ・ヘルパーたちの育成：毎月2回スタッフ・ヘルパーの勉強会を実施する。スタッフ・ヘルパーの中から適任者を選び、専門家の訓練指導に参加してもらい、訓練担当者を育成する。知的障がい分野教育専門家の2度目の招聘を実施する。スピーチセラピストのオンライントレーニングを実施する。

③ バングラデシュ国内ファンドレイズと啓発の強化

市内在住の2023年度資金支援者たちの協力を得て、継続支援者をさらに10名増やす。保護者によるファンドレイズグループをつくり、支援者を発掘する。

2) JOYJOY 事業の活動の実施

① デイケアの運営：デイケアの内容の充実化を図る。テーマ主導型教育の実践を、さらに周到にさせる。

② 家庭訪問：訓練担当者（スタッフ・ヘルパーからの選出者）による、家庭における訓練の実施を充実させる。

③ 啓発：デイケアのお出かけプログラムや、市内の児童養護施設訪問などを通して市内のさらなる啓発を図る。

④ 医療および社会福祉支援：市内の各事業所のサービス内容を把握し、家族に必要な情報提供をおこなう。家族のニーズに応じ、医療費や医薬品購入費用を支援する。

⑤ 行事：年間予定に沿い、各行事を実施する。スタッフ・ヘルパーたちが企画・運営に責任を持つよう指導する。

⑥ 親の会：母親の会の責任役員に、月例ミーティングの実施運営についてさらに責任を持ってもらうよう図る。父親の会は、意欲のある5名ほどの父親による地域ファンドレイズグループをつくり、支援者拡大を図る。父親による全体会は年に一度実施する。

3) JOYJOY プロジェクトの中間評価

JOYJOY プロジェクトの中間評価を実施し、2025年以降における事業の方向性について検討する。

(2) 新規ワーカー

2024年度は新規ワーカーを派遣する予定である。派遣候補国はタンザニアもしくはネパールであるが、協力団体のニーズを調査し、派遣者の可能性と調整のうえで派遣先を決定する。

(3)短期ワーカー

2024年度は短期ワーカーの具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3 - 2] 奨学金事業

2023年度からの継続としてインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの5カ国の奨学生71人を支援する。2024年度募集では、前述の5カ国に加え、ケニアとカンボジアを含めた国別の支援方針に従い、各国の状況を踏まえ、協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

(1)インドネシア

GKST、GMIM、ICAHS傘下にある保健医療施設で働く職員14名を継続して支援する予定である。病院の認証取得に必要とされる人材育成の要請、特に専門医・専門看護師・助産師、およびその他の有資格者の育成に対して積極的に支援をする。

- * GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2)カンボジア

カトリックプノンペン司教区下にあるCCHSを現地の協力団体とし、引き続き、当司教区で建設を予定している病院に必要な人材の育成を調査検討する。

- * CCHS(Catholic Community Health Services:カトリックコミュニティ保健サービス)

(3)ネパール

HDCS、TLMN、UMNMDTとこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者20名を継続して支援する予定である。ネパール政府が定めた各職種の人員配置数の規定を満たすため、各病院の人材育成のニーズに応じて、長期雇用が見込まれる病院職員の資格取得に対して積極的に支援する。

- * HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO。Okhaldhunga Community Hospital、

United Mission Hospital Tansen を傘下にもつ。

(4) バングラデシュ

KHCP で働く 4 名を継続して支援する予定である。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディック（※）の資格取得を目指す。2024 年度は、2 名の研修が終了予定である。KHCP では創立者の故ベーカー医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディックとして医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のための有資格者が必要となっている。

* パラメディック：医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。

* KHCP (Kailakuri Health Care Project：カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

(5) ウガンダ

UPMB、SRD 傘下にある保健医療施設で働く 12 名を継続して支援する予定である。UPMB と SRD 共に、病院では基礎的な人材が揃いつつあり、専門医など高度な人材が求められている。一方、診療所では基礎的な人材の格上げが引き続き求められている。特に SRD では、政府から派遣されていた医療従事者の政府機関への引き戻しの問題と、職員の技術不足のため持っている医療機材を十分に活用できないという課題があり、自前の人材育成を必要としている。

* UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau：ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、317 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese：ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

(6) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園のスタッフの人材育成要請に応じる。

(7) タンザニア

雨宮春子元ワーカーの派遣先であった TAHO 傘下にある保健医療施設で働く 21 名を継続して支援する予定である。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、医師補、正看護師・助産師、薬剤師など保健医療施設のニーズに沿って基礎的な分野での研修志望が多い。同時に、母子保健分野では専門医が少なく、その育成も要望されている。

現在 TAHO と実施している母子保健の協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトプロジェクト

クト」に関わることが期待できる職員の人材育成を、優先して支援する。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2024年度支援予定奨学生一覧

インドネシア (14名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2024年07月
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
看護師	46	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月～2024年06月
医師	36	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(小児科専門)	2022年02月～2025年12月
助産師	32	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年03月～2025年09月
看護師	36	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2023年02月～2025年02月
医師	35	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学(内科専門)	2023年01月～2027年12月
専門看護師	40	男	ICAHS Mojowarno Hospital	看護学	2023年08月～2025年08月
医師	32	男	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(眼科専門)	2024年01月～2026年01月
ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	歯学	2023年08月～2028年07月
助産師	37	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年09月～2026年08月
看護師	46	女	ICAHS Reksa Waluya Hospital	看護学	2024年05月～2025年12月

ネパール (20名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
臨床検査技師	32	男	HDCS Namuna Community Hospital	臨床検査学	2022年09月～2026年08月
看護教師	36	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年05月～2024年05月
看護師	29	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護師長	48	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年09月～2024年09月
看護師	29	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022年05月～2024年05月
看護師	27	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護部長	35	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2022年04月～2024年04月

2024 年度支援予定奨学生一覧

看護教師	46	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 05 月～ 2026 年 04 月
補助看護助産師	28	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023 年 01 月～ 2025 年 01 月
看護師	26	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2022 年 12 月～ 2025 年 12 月
医師	29	男	United Mission Hospital Tansen	医学（麻酔学）	2023 年 05 月～ 2025 年 04 月
医師	27	男	TLMN Anandaban Hospital	医学（整形外科・ 外傷外科学）	2023 年 04 月～ 2026 年 04 月
看護師	26	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022 年 09 月～ 2026 年 09 月
補助看護助産師	25	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023 年 11 月～ 2025 年 10 月
臨床工学技士	36	男	United Mission Hospital Tansen	臨床工学	2024 年 04 月～ 2027 年 04 月
補助看護助産師	24	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 09 月～ 2027 年 08 月
補助看護助産師	33	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 09 月～ 2027 年 08 月
看護師	24	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 12 月～ 2027 年 11 月
医療事務スタッフ	22	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	理学療法学	2023 年 06 月～ 2027 年 12 月
看護師	26	女	HDCS Gunjaman Hospital Chitwan	看護学	2023 年 09 月～ 2026 年 08 月

バングラデシュ（4名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023 年 01 月～ 2025 年 12 月
パラメディック	49	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2024 年 01 月～ 2026 年 12 月

ウガンダ（12名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
准看護師	34	女	SRD St. Paul's Health Center IV	医学	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
その他	33	女	SRD Rwesande Health Center IV	超音波診断学	2021 年 08 月～ 2024 年 07 月
看護助手	40	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022 年 02 月～ 2024 年 07 月
医療事務スタッフ	22	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023 年 01 月～ 2027 年 04 月
准看護師	28	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学・公衆衛生学	2023 年 03 月～ 2024 年 06 月

2024年度支援予定奨学生一覧

准看護師	26	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2022年03月～2026年03月
准看護師	29	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2023年07月～2024年12月
准看護師	34	男	UPMB Kiwoko Hospital	栄養学	2023年08月～2025年08月
准助産師	29	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	助産学	2023年07月～2024年12月
准看護師	31	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	看護学	2023年07月～2024年12月
医師	31	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2023年08月～2026年08月
准医師	34	女	SRD Kinyamaseke Health Center III	超音波診断学	2024年01月～2024年09月

タンザニア (21名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医師補	46	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月～2024年07月
医師補	40	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月～2024年07月
医療助手	25	男	TAHO Mwanzugui Dispensary	医学	2019年09月～2024年09月
医療助手	33	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医師補	30	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	22	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	21	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021年10月～2024年09月
医療助手	28	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	31	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護学	2021年10月～2024年09月
医療事務スタッフ	32	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021年11月～2024年11月
神父・司祭・チャプレン	36	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医師補	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2026年09月
医師補	25	女	TAHO Mwanzugui Dispensary	医学	2022年10月～2027年10月
医療助手	32	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022年10月～2025年10月
医療助手	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022年10月～2025年06月
准看護助産師	28	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2022年10月～2024年10月

2024 年度支援予定奨学生一覧

准看護助産師	33	男	TAHO St.John Paul II Hospital	眼科学	2022 年 10 月～ 2026 年 10 月
医療事務スタッフ	35	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	薬学	2022 年 09 月～ 2025 年 08 月
医師補	27	男	TAHO Ussongo Health Center	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	28	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2023 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	31	男	TAHO Rosemystica Dispensary	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

[3 - 3] 協働プロジェクト

ケニアとタンザニアのプロジェクトを継続実施する。ケニアのシロアムプロジェクトは、第二期の2年目となる。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトは、さらに1年延長し、2024年度末まで活動が続ける。

新規協働プロジェクトの発掘形成調査は、特に新規ワーカーの派遣との連携を念頭に置いて実施する。

(1) 第二期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンプ郡カブク村
プロジェクト期間 : 2023年4月1日～2027年3月31日 (5年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたちおよびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュニティの住民、その他の関係者 (地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンプ郡内の地域)
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される。

2024年度は、理学療法士、作業療法士の専門家を1名ずつ短期派遣し、シロアムの園スタッフの能力開発に取り組む。シロアムの園の理学療法および作業療法スタッフ向けのオンライン指導もおこなう。事務局スタッフによる協働プロジェクトのモニタリングは、作業療法短期専門家の派遣と同時期に実施する。

(2) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2025年3月 (7年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHO とその傘下の10の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

2018年4月から開始したプロジェクトは2023年3月に終了する予定であったが、分娩監視装置の活用および新生児蘇生法の確実な実施の定着を目指して1年延長した。今後、持続的にプロジェクトの成果を出すためには、研修の継続と会得技術の実践、機材の適切な使用と管理ができる必要がある。そこで各施設のトレーナーが指導的な役割を担い、プロジェクト終了後も継続的に研修が実施され、技術の定着が進むことを目指す。そのため、プロジェクトをさらに1年延長し、以下3点の分娩管理の技術向上を目指したトレーナー育成の活動を実施する。

- 1) 分娩監視装置を使用した分娩管理
- 2) 新生児蘇生法
- 3) 分娩第三期の管理

これらのフォローアップ活動は、巡回指導（スーパービジョン）、セミナーの機会を活用して実施する。

具体的な活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせてTAHO、TAHO傘下施設と協議の上、柔軟に調整する。

(3)HOPE（Health education On Preventing Early pregnancy：若年妊娠予防に向けた健康教育）プロジェクト

対象国 ：ウガンダ
活動地域 ：カセセ県
プロジェクト期間：2024年4月1日～2025年3月31日（1年間）
協力団体 ：SRD（South Rwenzori Diocese：ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区）
受益者 ：SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒
プロジェクト目標：SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒が若年妊娠のリスクから解放されるようエンパワメントされる。

ウガンダでは、新型コロナウイルス感染症流行下で若年妊娠が増加した。若年妊娠の増加は、奨学金のカウンターパートであるSRDが管轄するカセセ県でも同様だった。カセセ県では、若年妊娠の高まりを危惧する親や教育者から、若年妊娠予防に向けた健康教育の実施を求める声が上がっているが、政府系の学校では実施されていない。そこで、SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う子どもたちに、健康教育を通じて若年妊娠予防の啓発活動をすることは、地域にとっても有効性が高いと考えられる。現時点において、SRDで若年妊娠が増加したという大まかなデータはあるが、学校毎の詳細、若年妊娠に関する子どもたちの知識と行動のデータは保持していない。そこで2024年度はパイロットプロジェクトとして地域の若年妊娠に関するデータを収集する。また、対象施設を絞った上で、若年妊娠を予防する健康教育を実施する。パイロットプロジェクトを評価した上で、活動の有効性が認められた場合は、その後3年間の事業継続を検討する。

[3 - 4] 災害救援復興支援

パンデミックや自然災害等に対する支援要請が出てくる可能性に備えておく。そのためにも各国協力団体との関係維持と強化に努める。

4. 国内諸活動

オンラインが効果的である活動については、より一層の効果をあげられるよう研究と工夫を進める。会員増、支援者増につながる各種施策を企画実施する。使用済み切手運動については周知による受け取り増、ボランティアへの一層の協力依頼による活発化を目指す。教会訪問など、対面による活動も増やしていく。

[4 - 1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動をおこなう。第6回 JOCS 海外保健医療協力者会議の機会も発掘と育成に活用する。国際保健医療勉強会は、オンラインで実施する。

(1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、2024 年度も 4 回の勉強会をオンラインで開催する。また従来どおり、勉強会後に派遣希望者相談会をおこない、ワーカーの発掘・育成に努める。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、種々の活動をおこなう。対面での活動に加え、オンラインで実施した方が効果的な活動はオンラインでの実施を継続する。

(1) 使用済み切手運動

2024 年度も 2023 年度に引き続き、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

各地のスタンプショウへの参加

・ STAMP-SHOW2024 2024 年 4 月 (東京都立産業貿易センター台東館)

(2) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、前年度の講師派遣の記録を確認し、講話内容の重複を避ける。

保健医療系の学校等から専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

(3) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業ボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や JOCS の保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

(4) 国際協力イベント参加

2024 年度もグローバルフェスタ JAPAN への出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCS の認知度を高める機会としたい。

(5) ネットワーク活動

2024 年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」への参加と、「NGO 非戦ネット」「『公正な医療アクセスを世界のすべての人に！』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(6) 地区 JOCS オンライン全体ミーティング

地区 JOCS など日本各地にある JOCS 支援グループが参加するオンラインミーティングを 1 回開催する。活動状況の共有と、活動を活発にするための情報交換などをおこなう。

(7) 地区ボランティア活動協力

日本各地で JOCS を支援するために自主的に活動している団体と協力し、JOCS の活動を広報する。それにより支援者を増やす。

(8) 創立 60 周年記念事業

創立 60 周年記念事業の一環として活動紹介の映像を作成する。現在の JOCS の海外での活動を広く知らしめられるような映像とする。

(9) 使用済み切手運動 60 周年記念事業

記念事業として、啓発のためのポスターを制作、配布し、より多くの人々が使用済み切手

収集による国際協力活動に参加してもらえるよう周知する機会とする。

(10) オンラインスタディツアー

JOCS が海外事業を展開している国や活動をより身近に感じてもらうための方法としてスタディツアーが考えられる。しかし、支援者が実際に活動地を訪問して現地の様子を知るには、費用や時間などの制約があり機会が限られている。そこで、費用や時間の制約を受けにくいオンライン上で、スタディツアーを擬似的に体験することのできる機会を設ける。

[4 - 3] マーケティング

既存の支援者に支援を継続していただくため、会報誌や年次報告書で活動の進捗を伝える。また、新規支援者の獲得に向け、キリスト教書店での広報活動や教会訪問などの対面活動のほか、オンラインマーケティングなどの広報活動にも積極的に取り組む。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るため、年6回（偶数月10日）発行する。

海外3事業（海外派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告では、海外の活動地の協力団体や関係する人々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動の案内・報告や、支援者の声も掲載する。

(2) 年次報告書

6月にA4版の冊子形態で発行する。会員と、過去5年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

現地受益者や協力団体スタッフ、ワーカーと共に生きる人々のストーリーを中心に掲載し、支援によってどのような変化が生み出されたかを伝える。会費・寄付の用途を知ってもらい、支援を継続してもらうことを目指す。

また支援者の声を掲載することによって、新しく年次報告書を手にした人にも、親しみを持っていただけるようにする。

(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、JOCS の活動についてのプレスリリースを定期的におこなう。

(4) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』等に1ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広

告とし、海外の活動地の受益者の声を中心に掲載する。

また、JOCS 支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5)キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。また、東京と大阪の店舗でストアイベントを開催する。また、日本各地のキリスト教書店に、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかける。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げ、新規支援者獲得を目指す。

(6)教会訪問

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、礼拝・ミサ等の集会は時間短縮の対策を続けている教会が多い。そのため、教会の事情に配慮しながら関東・静岡県での活動報告会開催を働きかけていく。対面での活動報告会開催が可能な教会があれば、開催を依頼する。JOCS の活動内容を報告し、さらなる支援をお願いする。

(7)募金

夏期募金については、例年のように年次報告書を同封した募金趣意書を支援者に送付する。

冬期募金については、支援者と直近の1年以内に初めて使用済み切手を寄付した人に、募金趣意書を送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8)遺贈マーケティング

遺贈・相続財産寄付パンフレットを改訂する。2023 年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、冬期募金趣意書、年次報告書で遺贈パンフレットを案内する。

(9)オンラインマーケティング

ワーカーと共に活動する現地の人々や奨学生の活躍などについて、動画やニュースの掲載を通してホームページから新しい情報を常に届けられるよう、更新頻度を増やす。

また、Google の非営利団体向けプログラムを活用して、ターゲットに応じたキーワード選定をおこない、ウェブ検索者からのホームページへのアクセスを高める。

5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCSの使命に邁進できるよう総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。2024年度中には、理事が改選され、またその理事会により次期の各種委員会が設置されるため、スムーズに体制移行ができるようにする。

[5-1] 定時社員総会

第63回定時社員総会を、2024年6月8日（土）にお茶の水クリスチャン・センターの会議室にて開催する。また、ウェブ会議システムによる傍聴も可能とする。

[5-2] 理事会

定例理事会は、8回の開催を予定している。2024年6月8日（土）社員総会までの理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、土居弘幸、中寫裕一、
名取智子、東岡牧、本田まり、森田隆、柳澤理子

監事：榛木恵子、渡部芳彦

2024年6月から2026年6月の理事候補者10名および監事候補者2名の選任を、2024年6月8日の社員総会に諮る。

[5-3] 委員会

2022年6月に組織された各委員会（財務委員会、奨学金委員会、地区ボランティア活動委員会）の任期は、第63回定時社員総会開催日となる2024年6月8日翌日以降の最初の定例理事会の日までである。それ以降は、総会で選出される理事で構成される新理事会が、必要に応じて委員会を設置し諮問をおこなう。

2023年に組織されたネクステ会議準備委員会は、2024年11月開催の第6回JOCS海外保健医療協力者会議の準備をおこなう。

(1) 財務委員会

委員長：大友宣 副委員長：羽山信輝

委員：中寫裕一、吉川彰、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

諮問内容：会計規程に定められた事項について審議する。

現委員会の任期中に委員会の開催予定はない。

(2) 奨学金委員会

委員長：柳澤理子 副委員長：小宅泰郎

委員：澤田和美、霜越多麻美、細谷たき子、宮崎雅、滝澤さおり（事務局）、
竹内里佳（事務局、2024年4月まで）、村田素子（事務局）

諮問内容：奨学金授与者について審議する。

現委員会の任期中に委員会の開催予定はないが、必要に応じてメールによる決議をおこなう。

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：東岡牧 副委員長：久保礼子

委員：川島泉、土居弘幸、宮川眞一、高橋淳子（事務局）

諮問内容：地区等における JOCS 支援者（グループ）による自主的活動をさらに促進する方策を検討する。

現委員会の任期中最後の委員会を、2024 年 4 月に開催予定である。

(4) ネクステ会議準備委員会

委員：雨宮春子、大友宣、川島泉、齊藤実、佐藤陽太、山田千晴、弓野綾、
村田素子（事務局）、森田真実子（事務局）

第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議（2024 年 11 月 9 日～10 日開催予定）の準備をおこなう。

[5 - 4] 第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議

第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議の開催を、以下の概要で開催する。会議開催のために準備委員会を発足し、プログラムや議題等の詳細を検討する。

日程：2024 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）

場所：L stay & grow 南砂町（東京都江東区）

- 目的：(1) 神様の声と、世界及び日本の草の根の人びとのニーズに耳を傾け、今後 JOCS が担うべき使命（ミッション）および方向性（ビジョン）を明らかにする。
(2) JOCS の使命を話し合う中から明らかになった、現在 JOCS が直面している最も重要な課題・問題点について掘り下げ、その解決の方向性を明示する。

[5 - 5] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

マーケティング主任 高橋淳子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、滝澤さおり、
竹内里佳（4 月下旬～産休・育休）、村田素子、森田真実子

関西事務局 江川由美